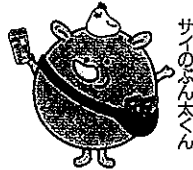




2018年10月18日 木曜日
(平成30年)

きょうは何の日

統計の日、冷凍食品の日



サイのどん太くん

埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
北区吉野町2-282-3
本社代表 048・795・9930

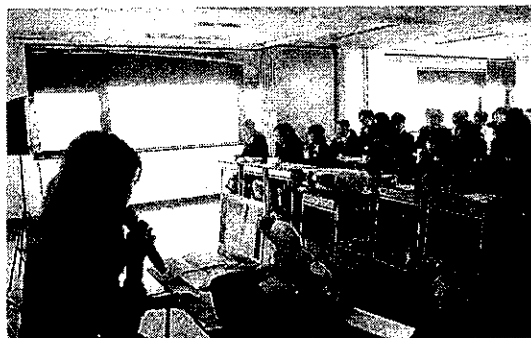
ドールの活用方法知って

クラークさいたま キャンパス

子どもたちにキワニスドールの重要性を知ってもらうことが17日、さいたま市大宮区のクラーク記念国際高校さいたまキャンパスで行われた。同校の生徒や埼玉キワニスクラブの会員約100人が参加した。

キワニスドールは、キワニスクラブが病院や養護福祉施設などに寄贈している布製の人形。同クラブの会員らが作製し、同校の生徒たちも作製活動に参加している。今回のシンポジウムでは、人形が実際にどのように使用されているのかを知ってもらうことを目的に開催。活動に参加する会員や、実際に寄贈される病院の関係者を招き、それ

「キワニス」シンポ開催



キワニスドールの使用方法に身を傾ける生徒たち。17日、さいたま市大宮区のクラーク記念国際高校さいたまキャンパス

ぞれの立場からキワニスドールについての思いが語られた。顔などが描かれず、白い布のまま寄贈されるキワニスドール。手渡された子どもたちが顔

や洋服を自由に描くことができると特徴だ。自治医科大付属さいたま医療センターの看護師は、ストレスや不安で毎晩夜泣きをしていた入院中の子どもが、自分の描いたオリジナルドールに触れることで、泣かずに眠れるようになったなどの実例を紹介した。「キワニスドールは無限の可能性があるということを再確認した」と語った。

今回の講演を受け同校の生徒は24日、ドールの作製活動に参加する。今窪一太キャンパス長は「自分の作った人形がどのように使われるかのイメージを持った上で、作製してほしい」。埼玉キワニスクラブの山田祐司会長は「『社会貢献をしたい』というような気持ちを持つきっかけにしてもらえば」とあいさつしていた。(勇有花子)